

地域社会・国際社会への責任

基本的な考え方

デンソーは社会の持続的な発展に貢献するため、グループの様々な資源を活用した社会貢献活動を積極的に推進し、良き企業市民としてステークホルダーから共感・信頼される企業をめざしています。2006年度に「デンソーグループ社会貢献活動基本方針」を定め、「人づくり」と「環境共生」を重点分野として、企業自らが主体的に推進する「オリジナルプログラムの充実」と「社員参加の風土づくり」に、グループ各社と社員の総力を挙げて取り組んでいます。

デンソーグループ社会貢献活動基本方針

(以下、重点活動抜粋)

重点分野

- 1. 人づくり**
 - ・青少年育成(科学技術・技能教育等)
 - ・社会的に恵まれない方の支援(障がい者福祉等)
- 2. 環境共生**
 - ・コミュニティの自然環境保護
 - ・地球環境保護

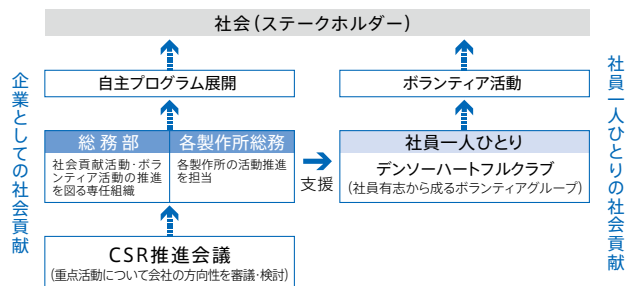
企業風土

社員一人ひとりが活動に参加する風土づくり

推進体制

1990年に総務部内に専任組織を設置し、会社としての方針・計画づくり・活動推進を行っています。会社としての重点活動については、CSR推進会議で実施計画・実績評価を審議・検討しています。また、専門性の高いNPOと協働することにより、企業とNPOそれぞれの強みを活かした先進性・独自性を発揮した活動を推進しています。活動結果は、ホームページ・年次報告書などで公開。活動ごとにアンケート調査を行い、意見や提言を次年度計画に反映し、レベル向上に努めています。

◎推進体制



URL デンソーの社会貢献活動

<http://www.denso.co.jp/ja/csr/social/index.html>

◎デンソーの社会貢献活動

区分	オリジナルプログラムの充実	社員参加の風土づくり
分野	人づくり 障がい者福祉(自立支援) デンソー太陽(株) 自立支援 障がい者施設の寄贈プログラム リユースパソコン(WAFCA)支援 アジア車いす交流センター 	社会貢献フォーラム(DECOSCHOOL) デンソーグループハートフルデー 社員ボランティア組織「デンソーハートフルクラブ」 社員ボランティア基金「はあとふる基金」 寄付活動支援制度「マッチングギフト」 ボランティア活動表彰制度
	青少年育成 少年少女発明クラブ支援 モノづくりスクール デンソー夏休み 技術系学生助学金(北米・中国・ベトナム) 青少年育成グローバルプログラム(DYEA)	
	環境共生 [コミュニティの自然環境保護 地球環境の保護] 事業所周辺地域美化活動 デンソーECOレンジャー21 環境教育 デンソーECOポイント制度 植林・森づくり「アンソニー緑のプロジェクト」 (ハイウェイのり面他事業所周辺)	

ローカルプログラム 地域社会に根ざした活動 リージナルプログラム 国や地域の課題に対する活動 グローバルプログラム 地球規模の課題に対する活動

人づくり

(1) 障がい者福祉

バリアフリー社会の実現をめざし、デンソーが1999年に設立したNPO法人「アジア車いす交流センター (WAFCA)」の支援をはじめ、障がいを持つ人々の社会参加と自立支援に取り組んでいます。特にWAFCAの活動は年ごとに拡充し、タイと中国での車いす生産支援、アジア各国への車いすの寄贈、障がいのある子どもの教育支援をはじめ、国内では車いす修理工房「WAFCA車いす病院」活動など多岐にわたっています。また、2002年度から継続している地域の非営利団体への中古パソコンの寄贈活動では、グループ各社の中古パソコンを回収し、デンソー太陽(株)の社員が再生して点訳

やパソコン講習などに活用いただいています。2009年度は38団体に77台を寄贈。累計668団体・924台に達しました。



傷んだ車いすを
現地でボランティア修理(タイ)

(2) 青少年育成

子どもの理科ばなれが指摘される中で、モノづくり企業として、科学や技術のおもしろさ・奥深さを体験してもらう活動を続けています。愛知県三河地方で盛んな「少年少女発明クラブ」には、1997年以来、社員が工作指導ボランティアとして参加。また、2001年から地域の小学生を対象に、デンソー工業技術短期大学校(愛知県安城市)を開放し、「夏休みモノづくりスクール」を開催してきました。2009年度からトヨタグループの展示施設「産業技術記念館」(名古屋市)が企画する子どもを対象にした「モノづくり週末ワークショップ」に協力し、年6回ほど教室を開催。技能五輪選手・デンソー工業技術短期大学校の卒業生・各製作所の技能職など社員ボランティアの指導のもと、計927名の親子がロボット・

竹水鉄砲・キーホルダーづくりなどを楽しみました。海外では、DIAMなど北米デンソーグループが2001年に設立した「北米デンソー財団」が大学の研究支援としてミシガン大学など12大学に44万ドル(約4,400万円)を助成。中国では天津大学など5大学の学生90名に総額70万円(約980万円)の助学金を、ベトナムではハノイ工科大学学生15名に総額4,500ドル(約45万円)の奨学金を贈りました(いずれも2009年度実績)。



自分でつくった竹水鉄砲の一斉放水
(週末ワークショップ:2009年7月)

ブラジル人学校への出張講座を開催

2009年10月、ブラジル人学校「エスコラ・サンパウロ」(愛知県安城市)の生徒を対象に、デンソーモノづくりスクールの出張講座(会場:安城市文化センター)を開催。小中学生の親子31人が、万華鏡づくりに取り組みました。この催しは、前年度に高棚製作所でのモノづくりスクールに、ブラジル人生徒10人を招待したことをきっかけに開催したものです。



通訳ボランティアといっしょに
万華鏡づくり

万華鏡づくりでは、技能系社員10名が講師を担当し、通訳ボランティアとして中南米に勤務経験のある社員と家族、デンソーブラジルの研修生など11名がサポートして、全員が作品を完成させました。

第2回青少年育成グローバルプログラムを実施

デンソーは、持続可能な社会づくりに積極的に取り組む若者の育成に向けた国際プログラム「DENSO YOUTH for EARTH Action ~新・地球人プロジェクト~」を2008年度から開始しました。第2回目となる2009年度は、ASEAN 6カ国と日本から公募で選ばれた25人の大学生・大学院生が参加し、「水」をテーマに10月に富士山・琵琶湖・愛知県で現場体験学習を行いました。各参加者は体験学習をもとに行動計画を策定し、それぞれ自国での実現に向けて取り組みを進めています。12月には名古屋市で開催したフォーラムに、アジアから3人の学生が進捗状況を発表。ミズオトカゲの保護活動(タイ)、映像やゲームを活用した高校生への環境教育(インドネシア)、学生の環境意識を高める映画コンテスト(シンガポール)など、興味深いテーマを披露しました。



現場体験学習(富士山)



新・地球人フォーラム(産業技術記念館)

環境共生

(1) デンソー ECOレンジャー 21

デンソーでは、2001年から小学生を対象にした体験型環境教育プログラム「デンソー ECOレンジャー 21」を通じて、環境のすばらしさ・大切さを共に考える取り組みを続けています。2009年度も愛知県で3コース・4回のプログラムを開催し、135名の子どもたちが参加しました。



「里山の恵み」講座で竹の間伐に挑戦 (2009年11月)

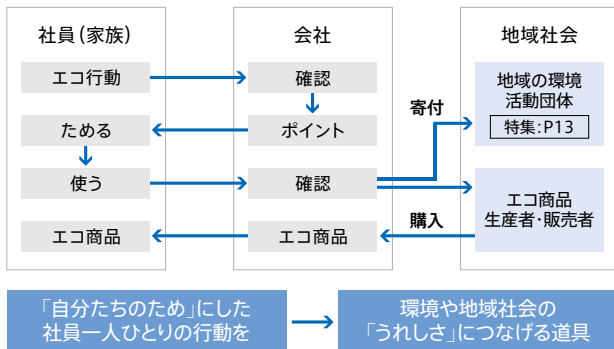
(2) デンソーエコポイント制度(通称:DECOポン)

2006年に社員と家族の自発的な環境行動を応援するためにスタートした独自のエコポイント制度「DECOポン」は、エコ商品購入、エコ通勤などでポイントが得られ、貯めたポイントはエコ商品との交換や地域の環境活動への寄付に使用できます。参加者は2009年度末で10,000名を超えました。また2009年度には、毎日でも気軽に取り組めるメニューの追加や、社内・自宅のパソコンから簡単に申請できるシステムの開発など、運用面の改善を図るとともに、

ポイント寄付による助成事業の規模を拡大し、社員・家族と地域の市民団体とのつながりを深めました。(⇒13ページ)

◎DECOポンの仕組み

対象者＝社員とその家族



◎ポイント対象のエコ行動(代表例)と還元メニュー

ポイント対象	内容	ポイント数
エコライフチェック	3か月に一度、家庭での実践度チェック	5P/回
環境日記	環境に関して見聞したこと、感じたことを日記につける	1P/5日
環境家計簿	家庭の毎月のエネルギー消費量からCO ₂ 排出量を計算する	5P/月
環境ライブラリー	環境に関する書籍・映画・音楽などを会員に紹介する	5P/回
エコ商品購入	事務局指定のエコ商品を購入(フェアトレード商品・有機農産物など)	購入価格の5%
環境イベント参加	環境関連の啓発イベントへの参加(社外イベントや職場での自主開催も対象)	社内:5P/回 社外:3P/回
環境ボランティア	活動への参加(社外イベントや職場での自主開催も対象)	社内平日:5P/回 社内休日:10P/回 社外:3P/回
エコ通勤	自宅から勤務地まで実測2.5km以上を毎日エコ通勤	徒歩・自転車:20P/月 その他:5P/月
個人還元 エコ商品との交換	・EXPO(愛知万博)エコマネー全交換商品 ・DECOポン オリジナルキャラクターグッズ ・フェアトレード商品・有機農産物など	1~150P
地域還元 環境活動への助成金	・社員からのポイント寄付数により助成金を決定 ・社員投票で助成先選定に社員の意思を反映	1P~

社員のボランティア活動支援

1994年、総務部に「ボランティア支援センター」を設置し、1998年には社員有志による会員制クラブ「デンソーハートフルクラブ」が発足。2005年には、希望者の給与・賞与から100円単位の資金を天引きし、社会貢献活動に役立てる「はあとふる基金制度」を開始するなど、会社と社員が一体

となって多彩な活動を展開しています。なお、2009年度に社員のボランティア参加率は30%に達しました。

◎社会貢献活動データ

活動費の内訳	2007年度	2008年度	2009年度
福祉	18%	17%	14%
青少年育成	24%	20%	15%
環境共生	6%	6%	7%
文化芸術	13%	15%	19%
地域社会・その他	39%	42%	45%
合計	14億3,800万円	12億5,100万円	9億7,481万円

◎活動への参加状況

活動費の内訳	2007年度	2008年度	2009年度
DECOポン加入者	約5,000名	約7,000名	約10,000名
DECOスクール参加者(家族・市民含む)	2,140名	3,050名	1,990名
ハートフルクラブ登録人数(社員08含む)	2,000名	2,370名	2,770名
はあとふる基金会員	3,930名	4,750名	5,378名
はあとふる基金の寄付・義援金	26団体・1,200万円	30団体・1,300万円	13団体・750万円
マッチングギフト申請数	338件	221件	61件
社員のボランティア活動表彰制度対象者	1名	2名	4名
社員参加率	22%	26%	30%
DECOポン助成先	—	3団体・30万円	8団体・80万円
DECOポン助成活動参加社員	—	約70名	約150名

広がる社員の社会貢献活動

デンソー独自のエコポイント制度「DECOポン」が社内外で認知されるにつれて、DECOの名を冠した多彩な企画が社員によって発案・運営され、NPO・大学・自治体・企業をはじめ地域で活動する様々な団体と連携・協働した取り組み

も広がっています。そこでは、環境という枠を超えて、貧困問題や格差社会の是正などの社会的な課題解決に向けた学習や交流も始まり、デンソー社員の社会貢献活動は一段と厚みを増しています。

DECO市

物品の購入を通じて環境や福祉に貢献する団体の活動を支援するため、“地域とつながるマーケット”をスローガンに、(株)デンソー本社を会場に年3回開催しています。2009年度は、5月・11月・2月に、NPOや障がい者支援団体など55団体が、フェアトレード商品・有機農産物・洋菓子や工芸品などの販売ブースを出展し、多数の社員が参加しました。



DECOポンファームツアー

できるだけ農業や化学肥料を使わない米・野菜・果物づくりを支援している事業者と連携し、農業体験や田んぼの生き物探しツアーなどを年4回実施。2009年度は、90名が参加しました。



DECOスクール

生活の中で楽しく取り組めるエコ活動を学んだり、社会の様々なボランティア活動に触れ合う場として、講演会・映画上映・手づくり体験・エコツアーなど多彩なプログラムを実施しています。

2009年度は、7月に「刈谷キャンパス」(会場:(株)デンソー本社)として、NPO・大学・企業・自治体と協働で“暮らす”をテーマに16のプログラムを開催。デンソー社員・家族・一般市民など925人が参加し、87%の人々から「とても満足」「満足」との評価をいただきました。

また、12月には「名古屋キャンパス」(会場:産業技術記念館)にて、“グリーンジョブ”をテーマに、13名の社外講師が「環境とつながる働き方」について、講演・トークセッション・ワークショップなどを開催。一般市民や社員・家族など1,065人が参加し、80%の人々から「働くモチベーションが上がった」との回答をいただきました。



4万人のキャンドルナイト

夏至と冬至の夜、省エネを意識しながら、30分以上ローソクの明かりだけで語り合ったり、子どもと絵本を読むなどすれば、エコポイントを獲得できるイベントです。2007年から行っています。



◎刈谷キャンパス



環境アニメ映画の上映



風呂敷でマイバッグづくり

◎名古屋キャンパス



多彩なゲストによる講演
(ソフィアバンク:藤沢久美さん)



フォーラムではゲストと
参加者のトークセッションも



ハートフル横丁



デンソーハートフルクラブ総会



学生を対象にしたグリーン
ジョブのワークショップ



参加者の環境や仕事への思いが
カードに書かれたDECOツリー

DECOウォーク

「デンソーハートフルデー」(P47)の一環として、ウォーキングを楽しみながら地域の清掃・花植え・グリーンマップづくりなどを2005年から実施。2009年度は、累計1,700名のグループ社員と家族が参加しました。



COLUMN

創立60周年記念事業として、ワクチン840人分の「エコキャップ」を回収

デンソーは、記念事業の一環として、2009年11月～2010年1月の3ヵ月間、「エコキャップ活動」をグループ全体で実施しました。エコキャップとは、ペットボトルのキャップを回収して樹脂に再生し、売却益で世界の子どもたちにワクチンを贈る活動です。この結果、目標を大きく上回る約67万3,500個のキャップが集まり、約840人分のワクチンを寄贈(キャップ800個で1人分のワクチン)することができました。

この活動は、2005年に神奈川県的女子高校生たちが「ペットボトルは回収・再生されるのに、キャップは一般ゴミとして燃やされ、CO₂を出している。これを集めて何かできないか」と呼びかけたのが始まりです。この声に、教育関係者・リサイクル事業者・NPOなどが協力し、売却益をワクチン購入資金として寄付する仕組みをつくり、全国に広がりました。

デンソーでは、空き缶のプルトップを回収してアジアの障がい児に車いすを寄贈する活動を2005年から続けていますが、2009年3月に安城製作所の有志が「エコキャップ活動」を始めたことが契機となり、60周年記念事業としてグループ全体に拡大することになったのです。デンソーは、今後もこの活動を継続していく方針です。

◎エコキャップの活動を呼びかけた社内報



デンソーグループハートフルデー

世界各国・地域に展開するグループ会社では、地域固有の社会的な課題解決に向け、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。特に2004年から「デンソーグループハートフルデー」として“思いやりを行動に”を統一スローガンに

掲げ、事業所ごとに地域貢献の日を設定して環境美化・福祉・教育支援活動に取り組んでいます。2009年度は、20の国・地域で約4万人の社員が参加しました。

北中南米 (ブラジル)

デンソー・インダストリアル・アマゾン・リミターダ(DNAZ)

恵まれない子どもたちに クリスマス・プレゼントを

DNAZは、クリスマスも近い2009年12月12日、地域の恵まれない家庭に、おもちゃ 800個の購入資金を寄付しました。そして、社員46名がおもちゃの包装や配送をサポートしました。何よりの喜びは、子どもたちの笑顔、社員がサンタクロースと同じ気持ちになれた幸せ、そして、企画に参加した全員が連帯感に包まれたことです。ある社員は「今年のクリスマスが一番の思い出は、このイベントに参加できたことです」と語っています。



欧州 (トルコ)

デンソー・オートモーティブ・バルカハリ・サナイ(DNTR)

学校児童に中古パソコン・文具・ 衣服などを寄贈

DNTRでは、2010年1月、十分な教育を受けられない児童への支援キャンペーンを企画・実施しました。社員が協力して中古パソコン6台、衣服や靴、書籍や文具などを用意し、150名の子どもたちに届けました。活動に参加した70名の社員は、「どれも子どもたちが必要としている品々です。少しでも役立ててもらえれば、こんなに嬉しいことはありません」と語ります。この企画の意義は、何より子どもたちの笑顔が雄弁に物語っています。



中国

中国デンソーグループ15社

WAFCAと連携して 車いす寄贈活動を展開

中国で事業を展開するグループ会社15社は、障がい者への継続的な支援活動として、車いす寄贈の長期展開を検討しました。そして、2009年度から社員ボランティア8,000名が参加して募金活動を実施しました。この結果、WAFCAと連携し、110台の車いすを天津・広州地域の民生局経由で、当地の老人ホームや孤児院に寄贈しました。障がいのために自立の機会が失われた子どもたちや移動の自由がない人々を支援するため、今後もこの活動を続けていきます。



豪 亜 (インド)

デンソー・ハリアナ(DNHA)

子どもたちの環境意識を高める 工場見学

DNHAでは、2009年12月、児童を対象に地球環境への啓発を兼ねた工場見学を開催しました。子どもたちは、省エネコーナー、ごみ分別コーナー、エコ・アイランド、雨水の貯水池などの見学を通じて、企業が環境に熱心に取り組む姿勢に驚いた様子です。この工場見学は、社内で最も人気のあるボランティア活動で、学校の先生からも高く評価されています。本業を活かした環境教育を通じて、子どもたちの環境意識を高めていくことは、とても価値があると実感しています。



日 本

デンソーエムテック(愛知)

「北っ子の森」自然保護活動で 竹林を手入れ

私たちは、子どもたちに自然環境を守る大切さと資源の有効活用を学んでもらうことを目的に、地元の小学校に隣接する森の自然保護活動を継続的に行っています。2009年度は7月と12月に、繁茂した竹林の間伐、伐採した竹を利用した炭づくりや門松づくりを実施しました。作業は楽ではありませんが、参加した小学校児童・保護者・先生と社員ボランティア10名がともに汗を流しながら交流を深めるひとは格別で、毎年、参加者が増加しています。



日 本

アスモ(静岡)

「青少年の科学体験まつり」で モータづくりの楽しさを

子どもの理科はなれが懸念される中で、モータづくりの楽しさを体験してもらおうと、アスモは、静岡県湖西市で毎年12月に開催される「青少年科学体験まつり」に『モータをつくらう』ブースを出展しています。連続7回目となる2009年度は、社員ボランティア42名が参加し、コイル巻きや回転数計測などをサポート。自作モータの回転数がスクリーンに表示されるたびに一喜一憂する子どもたちの表情は、創意工夫の面白さを知った輝きに満ちていました。

